



平成28年1月4日

各 位

会 社 名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 小 林 武 司
(コード：2538 東証第二部)
問合せ先 執行役員 財務計画部長 柚 義 継
(電話番号 06-6444-5293)

(訂正)「平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成27年11月6日付適時開示「平成27年9月期決算短信の開示時期の遅延並びにこれに係る経緯として当社代表取締役会長への便宜供与に係る疑義に対する独立調査委員会の調査及び当該調査の結果を踏まえたガバナンス体制の検討等に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成26年2月7日付「平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了いたしましたので、訂正内容についてお知らせいたします。

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には____を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2538 URL http://www.j-fla.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 武司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 柚 義継 (TEL) 06-6444-5293
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第1四半期の連結業績(平成25年10月1日~平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第1四半期	7,544	△4.3	508	△15.9	387	△28.4	340	△6.8
25年9月期第1四半期	7,883	1.9	604	29.9	541	27.7	365	111.2

(注) 包括利益 26年9月期第1四半期 337百万円(△23.7%) 25年9月期第1四半期 442百万円(167.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第1四半期	5.02	—
25年9月期第1四半期	5.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第1四半期	25,145	3,354	13.3
25年9月期	23,462	3,017	12.9

(参考) 自己資本 26年9月期第1四半期 3,354百万円 25年9月期 3,017百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	—	—	0.00	0.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日~平成26年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,400	0.3	440	25.7	270	—	200	—	2.94
通期	26,000	2.9	800	—	450	—	340	—	5.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年9月期1Q	68,004,520株	25年9月期	68,004,520株
② 期末自己株式数	26年9月期1Q	45,826株	25年9月期	45,826株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年9月期1Q	67,958,694株	25年9月期1Q	64,759,683株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策により円安・株高が進行し、輸出企業を中心に景気回復の兆しが見られたものの、新興国景気の減速や平成26年4月からの消費税増税の影響が懸念されることから、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループは企業理念である「食は生命」「食は安心」「食は幸せ」「食は集い」に基づいて、安心・安全を徹底するとともに、高品質な商品とサービスの提供に努めました。売上につきましては、営業体制の見直し、新規開拓の推進、新商品の導入、値上げ等を実施しましたが、厳しい市場環境の影響等により伸び悩みました。また、売上原価につきましては、円安による原材料価格及び輸入品仕入価格の高騰が大きく影響しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,544百万円(前年同期比4.3%減)、営業利益は508百万円(前年同期比15.9%減)、経常利益は387百万円(前年同期比28.4%減)、四半期純利益は340百万円(前年同期比6.8%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、平成25年10月にたまり醤油の値上げを実施しましたが、主力商品の「マルキンこいくちしょうゆ1L」「マルキンうすくちしょうゆ1L」が厳しい市場環境の影響や利益重視の販売を推進(不採算取引の見直し等)したこと等により売上が減少しました。

つゆ・たれ類につきましては、「マルキン旨味つゆ1L」が好調、また昨夏発売の「京はばねろソース100ml」「マルキン大阪うどんすき鍋つゆ750g」「マルキン徳島ラーメン鍋スープ750g」が順調に推移しましたが、主に業務用のPB商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、主力商品の「盛田料理酒1L」「盛田醸造みりんタイプ1L」が取引条件の見直し等により減少しましたが、家庭用のPB商品及び業務用商品は新規開拓が順調に推移したこと等により前年同期並みの売上となりました。

漬物につきましては、ペースト状商品や昨秋発売の「忠勇酒かすで漬けました。」シリーズ2品(ゴーヤ&胡瓜、筍)が堅調に推移したものの、需要の減少や低価格傾向の影響を受けたこと等により売上が減少しました。

飲料につきましては、「ハイピースノンカフェイン黒豆茶500ml」「ハイピース凍頂烏龍茶500ml」をリニューアルし拡売施策を進めたものの、既存商品が競合他社との価格競争で苦戦したことに加え、PB商品の落ち込み等により売上が減少しました。

酒類につきましては、経済酒は販売価格条件の見直し(抑制)を実施したこと等により売上が減少しました。特定名称酒においては、「男山大吟醸300ml/720ml/1.8L」や「盛田無濾過吟醸 本生1.8L」が堅調に推移しました。また、輸出においては、中国・韓国向けの「尾張男山1.8L」「ねのひ本醸造自然水仕込1.8L」が好調で売上が増加しました。清酒以外では、「盛田蔵出し本みりん1.8L」や焼酎が好調で売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は4,016百万円(前年同期比6.2%減)、セグメント利益(営業利益)は254百万円(前年同期比43.7%増)となりました。

(輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、フォアグラが新規チャネル開拓と販売ボリューム増加に成功しました。また、国内メーカーとの協力関係を更に強化した鴨肉、前期より販売を開始した国内産キノコ、ルージェ社の新商品であるハイプレッシャー処理をした冷凍オマール等が売上増加に寄与しました。

製菓用食材につきましては、洋菓子市場が低迷する環境の中、主力商品の「Kiriクリームチーズ」は、洋菓子メーカーの定番採用に重点を置き、またその他商品(チョコレート、マスカルポーネ等)も新規開拓に注力したこと等により前年同期並みの売上となりました。

小売用商品につきましては、主力商品の「ボンヌママンジャム」は、利益確保のため特売回数を減らしブランドイメージを確保することに努めました。また、キャビア、フォアグラ等の高額商品及びギフト商品が好調に推移したこと等により売上が増加しました。

ワイン類につきましては、主力商品の「ボランジェ」はホテル・レストランでのグラス売りを強化、問屋との取組強化及び試飲販売実施により好調に推移しました。また、高額ワイン(ボルドー、オーパス・ワン)の売上復活、チリワインの新規開拓等により売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は3,420百万円(前年同期比5.9%増)、セグメント利益(営業利益)は266百万円(前年同期比6.7%減)となりました。

なお、平成25年4月1日の連結子会社間の合併に伴い、報告セグメントの見直しを行った結果、保有する㈱ブルーゲイツ株式の全部を平成25年2月27日付で売却したこと等によって、「水産加工販売事業」は重要性が乏しくなり報告セグメントに含まれない「その他」に含めたため、記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、現金及び預金が116百万円、受取手形及び売掛金が1,924百万円増加し、商品及び製品が265百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,799百万円増加し13,579百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が121百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ112百万円減少し11,543百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ1,683百万円増加し25,145百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が835百万円、未払費用が500百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,475百万円増加し17,884百万円となりました。固定負債は、長期借入金が113百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ129百万円減少し3,906百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、四半期純利益340百万円により利益剰余金が増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ337百万円増加し3,354百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く環境は、今後も厳しい状況が続くものと予想しております。このような事業環境の中、既存の食品事業領域における着実な成長と、経営の効率化により財務体質の健全化を図ってまいります。

なお、平成25年11月8日付「平成25年9月期決算短信」にて発表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもマイナスとなりました。

当第1四半期連結累計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上しているものの、季節変動的な要因があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、収益改善へ向けた各施策「不採算事業を見直しコア事業への集中」、「高付加価値製品の開発・販売」、「コスト削減」は着実に推移しており、当社といたしましては、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,196	1,312
受取手形及び売掛金	4,728	6,652
商品及び製品	3,136	2,870
仕掛品	1,764	1,795
原材料及び貯蔵品	579	618
その他	404	361
貸倒引当金	△30	△32
流動資産合計	11,779	13,579
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,647	6,598
その他(純額)	2,167	2,094
有形固定資産合計	8,814	8,692
無形固定資産		
のれん	1,843	1,804
その他	82	191
無形固定資産合計	1,925	1,995
投資その他の資産		
その他	1,676	1,600
貸倒引当金	△760	△744
投資その他の資産合計	915	855
固定資産合計	11,655	11,543
繰延資産	27	22
資産合計	23,462	25,145

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,137	2,973
短期借入金	12,072	12,040
1年内返済予定の長期借入金	544	540
1年内償還予定の社債	44	44
未払法人税等	33	78
賞与引当金	132	76
その他	1,443	2,130
流動負債合計	16,408	17,884
固定負債		
社債	1,198	1,198
長期借入金	1,557	1,444
退職給付引当金	235	200
その他	1,044	1,063
固定負債合計	4,036	3,906
負債合計	20,444	21,790
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	7,511	7,511
利益剰余金	△7,273	△6,932
自己株式	△5	△5
株主資本合計	3,006	3,346
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	9
繰延ヘッジ損益	4	—
為替換算調整勘定	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	11	8
純資産合計	3,017	3,354
負債純資産合計	23,462	25,145

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	7,883	7,544
売上原価	<u>5,511</u>	<u>5,379</u>
売上総利益	<u>2,371</u>	<u>2,165</u>
販売費及び一般管理費	<u>1,767</u>	<u>1,656</u>
営業利益	<u>604</u>	<u>508</u>
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	0	0
持分法による投資利益	19	16
為替差益	15	—
貸倒引当金戻入額	<u>3</u>	<u>2</u>
その他	<u>18</u>	<u>11</u>
営業外収益合計	<u>61</u>	<u>35</u>
営業外費用		
支払利息	105	102
為替差損	—	34
その他	<u>19</u>	<u>18</u>
営業外費用合計	<u>124</u>	<u>156</u>
経常利益	<u>541</u>	<u>387</u>
特別利益		
関係会社株式売却益	—	25
その他	—	4
特別利益合計	—	29
特別損失		
減損損失	—	13
事業再編損	3	—
その他	0	7
特別損失合計	3	20
税金等調整前四半期純利益	<u>537</u>	<u>396</u>
法人税、住民税及び事業税	<u>80</u>	51
法人税等調整額	91	3
法人税等合計	<u>172</u>	55
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>365</u>	<u>340</u>
少数株主利益	—	—
四半期純利益	<u>365</u>	<u>340</u>

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	365	340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	0
繰延ヘッジ損益	78	△4
為替換算調整勘定	△3	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	76	△3
四半期包括利益	442	337
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	442	337
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(訂正前)



平成26年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2538 URL http://www.j-fla.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 武司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 柚 義継 (TEL) 06-6444-5293
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第1四半期の連結業績(平成25年10月1日~平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第1四半期	7,544	△4.3	493	△16.3	371	△28.4	325	△5.7
25年9月期第1四半期	7,883	1.9	589	26.6	518	22.4	344	99.1

(注) 包括利益 26年9月期第1四半期 321百万円(△23.7%) 25年9月期第1四半期 421百万円(155.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第1四半期	4.78	—
25年9月期第1四半期	5.32	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第1四半期	25,150	3,381	13.4
25年9月期	23,462	3,059	13.0

(参考) 自己資本 26年9月期第1四半期 3,381百万円 25年9月期 3,059百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	—	—	0.00	0.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日~平成26年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,400	0.3	440	35.7	270	—	200	—	2.94
通期	26,000	2.9	800	—	450	—	340	—	5.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年9月期1Q	68,004,520株	25年9月期	68,004,520株
② 期末自己株式数	26年9月期1Q	45,826株	25年9月期	45,826株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年9月期1Q	67,958,694株	25年9月期1Q	64,759,683株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策により円安・株高が進行し、輸出企業を中心に景気回復の兆しが見られたものの、新興国景気の減速や平成26年4月からの消費税増税の影響が懸念されることから、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループは企業理念である「食は生命」「食は安心」「食は幸せ」「食は集い」に基づいて、安心・安全を徹底するとともに、高品質な商品とサービスの提供に努めました。売上につきましては、営業体制の見直し、新規開拓の推進、新商品の導入、値上げ等を実施しましたが、厳しい市場環境の影響等により伸び悩みました。また、売上原価につきましては、円安による原材料価格及び輸入品仕入価格の高騰が大きく影響しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,544百万円(前年同期比4.3%減)、営業利益は493百万円(前年同期比16.3%減)、経常利益は371百万円(前年同期比28.4%減)、四半期純利益は325百万円(前年同期比5.7%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、平成25年10月にたまり醤油の値上げを実施しましたが、主力商品の「マルキンこいくちしょうゆ1L」「マルキンうすくちしょうゆ1L」が厳しい市場環境の影響や利益重視の販売を推進(不採算取引の見直し等)したこと等により売上が減少しました。

つゆ・たれ類につきましては、「マルキン旨味つゆ1L」が好調、また昨夏発売の「京はばねろソース100ml」「マルキン大阪うどんすき鍋つゆ750g」「マルキン徳島ラーメン鍋スープ750g」が順調に推移しましたが、主に業務用のPB商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、主力商品の「盛田料理酒1L」「盛田醸造みりんタイプ1L」が取引条件の見直し等により減少しましたが、家庭用のPB商品及び業務用商品は新規開拓が順調に推移したこと等により前年同期並みの売上となりました。

漬物につきましては、ペースト状商品や昨秋発売の「忠勇酒かすで漬けました。」シリーズ2品(ゴーヤ&胡瓜、筍)が堅調に推移したものの、需要の減少や低価格傾向の影響を受けたこと等により売上が減少しました。

飲料につきましては、「ハイピースノンカフェイン黒豆茶500ml」「ハイピース凍頂烏龍茶500ml」をリニューアルし拡売施策を進めたものの、既存商品が競合他社との価格競争で苦戦したことに加え、PB商品の落ち込み等により売上が減少しました。

酒類につきましては、経済酒は販売価格条件の見直し(抑制)を実施したこと等により売上が減少しました。特定名称酒においては、「男山大吟醸300ml/720ml/1.8L」や「盛田無濾過吟醸 本生1.8L」が堅調に推移しました。また、輸出においては、中国・韓国向けの「尾張男山1.8L」「ねのひ本醸造自然水仕込1.8L」が好調で売上が増加しました。清酒以外では、「盛田蔵出し本みりん1.8L」や焼酎が好調で売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は4,016百万円(前年同期比6.2%減)、セグメント利益(営業利益)は254百万円(前年同期比43.8%増)となりました。

(輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、フォアグラが新規チャネル開拓と販売ボリューム増加に成功しました。また、国内メーカーとの協力関係を更に強化した鴨肉、前期より販売を開始した国内産キノコ、ルージェ社の新商品であるハイプレッシャー処理をした冷凍オマール等が売上増加に寄与しました。

製菓用食材につきましては、洋菓子市場が低迷する環境の中、主力商品の「Kiriクリームチーズ」は、洋菓子メーカーの定番採用に重点を置き、またその他商品(チョコレート、マスカルポーネ等)も新規開拓に注力したこと等により前年同期並みの売上となりました。

小売用商品につきましては、主力商品の「ボンヌママンジャム」は、利益確保のため特売回数を減らしブランドイメージを確保することに努めました。また、キャビア、フォアグラ等の高額商品及びギフト商品が好調に推移したこと等により売上が増加しました。

ワイン類につきましては、主力商品の「ボランジェ」はホテル・レストランでのグラス売りを強化、問屋との取組強化及び試飲販売実施により好調に推移しました。また、高額ワイン(ボルドー、オーパス・ワン)の売上復活、チリワインの新規開拓等により売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は3,420百万円(前年同期比5.9%増)、セグメント利益(営業利益)は265百万円(前年同期比3.2%減)となりました。

なお、平成25年4月1日の連結子会社間の合併に伴い、報告セグメントの見直しを行った結果、保有する㈱ブルーゲイツ株式の全部を平成25年2月27日付で売却したこと等によって、「水産加工販売事業」は重要性が乏しくなり報告セグメントに含まれない「その他」に含めたため、記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、現金及び預金が116百万円、受取手形及び売掛金が1,924百万円増加し、商品及び製品が265百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,797百万円増加し13,589百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が113百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ104百万円減少し11,538百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ1,688百万円増加し25,150百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が837百万円、未払費用が502百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,496百万円増加し17,862百万円となりました。固定負債は、長期借入金が113百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ129百万円減少し3,906百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、四半期純利益325百万円により利益剰余金が増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ321百万円増加し3,381百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く環境は、今後も厳しい状況が続くものと予想しております。このような事業環境の中、既存の食品事業領域における着実な成長と、経営の効率化により財務体質の健全化を図ってまいります。

なお、平成25年11月8日付「平成25年9月期決算短信」にて発表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもマイナスとなりました。

当第1四半期連結累計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上しているものの、季節変動的な要因があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、収益改善へ向けた各施策「不採算事業を見直しコア事業への集中」、「高付加価値製品の開発・販売」、「コスト削減」は着実に推移しており、当社といたしましては、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,196	1,312
受取手形及び売掛金	4,738	6,662
商品及び製品	3,136	2,870
仕掛品	1,764	1,795
原材料及び貯蔵品	579	618
その他	407	361
貸倒引当金	△30	△32
流動資産合計	11,792	13,589
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,647	6,598
その他(純額)	2,154	2,089
有形固定資産合計	8,801	8,687
無形固定資産		
のれん	1,843	1,804
その他	82	191
無形固定資産合計	1,925	1,995
投資その他の資産		
その他	1,654	1,576
貸倒引当金	△738	△720
投資その他の資産合計	915	855
固定資産合計	11,642	11,537
繰延資産	27	22
資産合計	23,462	25,150

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,127	2,964
短期借入金	12,072	12,040
1年内返済予定の長期借入金	544	540
1年内償還予定の社債	44	44
未払法人税等	33	78
賞与引当金	132	76
その他	1,410	2,117
流動負債合計	16,365	17,862
固定負債		
社債	1,198	1,198
長期借入金	1,557	1,444
退職給付引当金	235	200
その他	1,044	1,063
固定負債合計	4,036	3,906
負債合計	20,402	21,769
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	7,511	7,511
利益剰余金	△7,231	△6,906
自己株式	△5	△5
株主資本合計	3,048	3,373
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	9
繰延ヘッジ損益	4	—
為替換算調整勘定	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	11	8
純資産合計	3,059	3,381
負債純資産合計	23,462	25,150

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	7,883	7,544
売上原価	<u>5,523</u>	<u>5,380</u>
売上総利益	<u>2,360</u>	<u>2,163</u>
販売費及び一般管理費	<u>1,771</u>	<u>1,670</u>
営業利益	<u>589</u>	<u>493</u>
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	0	0
持分法による投資利益	19	16
為替差益	15	—
その他	<u>19</u>	<u>18</u>
営業外収益合計	<u>58</u>	<u>37</u>
営業外費用		
支払利息	105	102
為替差損	—	34
その他	<u>23</u>	<u>21</u>
営業外費用合計	<u>128</u>	<u>159</u>
経常利益	<u>518</u>	<u>371</u>
特別利益		
関係会社株式売却益	—	25
その他	—	4
特別利益合計	—	29
特別損失		
減損損失	—	13
事業再編損	3	—
その他	0	7
特別損失合計	3	20
税金等調整前四半期純利益	<u>515</u>	<u>380</u>
法人税、住民税及び事業税	<u>78</u>	<u>51</u>
法人税等調整額	91	3
法人税等合計	<u>170</u>	<u>55</u>
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>344</u>	<u>325</u>
少数株主利益	—	—
四半期純利益	<u>344</u>	<u>325</u>

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	344	325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	0
繰延ヘッジ損益	78	△4
為替換算調整勘定	△3	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	76	△3
四半期包括利益	421	321
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	421	321
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。